

貴志川線・沿線活性プロジェクト
2013年度 成果報告書

た ま 散 歩

T A M A S a n p o 

プロジェクトメンバー

伊藤美沙希、小川桃佳、北野瑞紀、田島寛也、中村ちひろ、
中本さわ、伴中亜矢香、東山恵里芳、松本康作、回り道杏奈

指導教員
辻本勝久

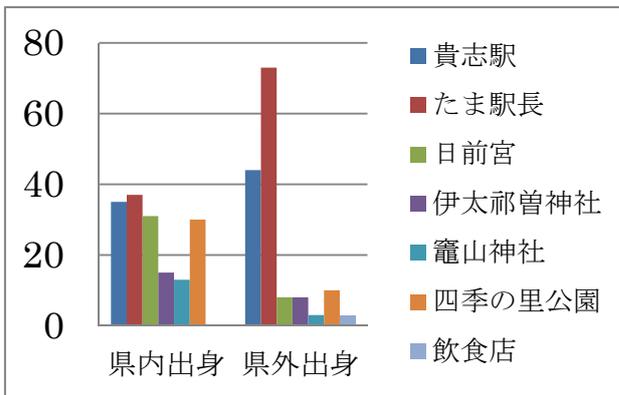
<プロジェクト概要>

このプロジェクトは、和歌山大学生の貴志川線の認知度・利用率を上げるために立ち上げたものである。たま駅長のいる和歌山にある大学に通いながら、貴志川線を利用したことがなく、また沿線の神社の存在を知らない学生が多いため、もっと多くの人にその魅力を知って訪れてもらうべく活動をしてきた。今年度の7月に発足し、視察を通じた貴志川線の魅力発信やツアー企画、沿線の住民団体との交流などを行った。メンバーは観光学部生、教育学部生、経済学部生から成る10人で構成されており、様々な視点から貴志川線の魅力についてとらえることが出来た。

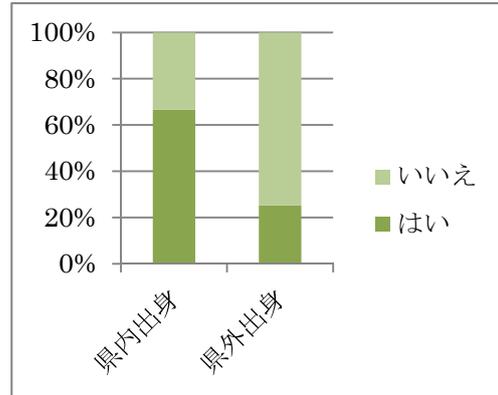
<プロジェクト立ち上げの背景と目的>

和歌山電鐵によるユニークな取り組みのもと、利用者を伸ばしてきた貴志川線だが、本プロジェクトが和歌山大学生125人（内県内出身者42人、県外出身者83人）にアンケートを行ったところ、学生の貴志川線に対する認知度はかなり低いものとなっていることが分かった。（グラフ参照）

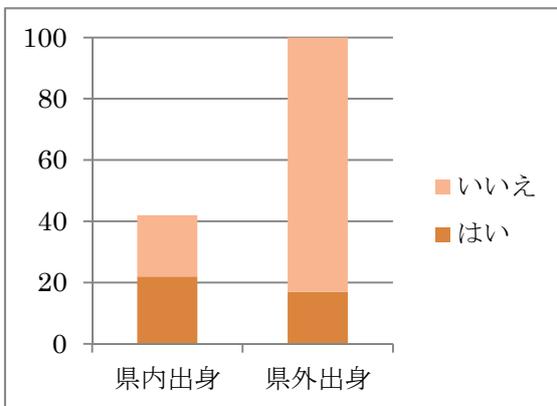
<沿線で知っているものに○をつけなさい>



<貴志川線が廃線の危機にあることを知っている>



<貴志川線を利用したことがある>



☆ 「はい」と答えた39人のうち観光目的は11人

また、観光客の多くは沿線を観光せず、ほとんど和歌山駅と貴志駅を往復するだけであることが和歌山電鐵との意見交換や聞き込み調査で分かった。

以上のことから、貴志川線には、①学生の認知度・利用率が低いこと、②沿線を観光する観光客が少ないことの2つの問題があることがあげられる。そこで改善策として、フットワークが軽く、リピーターになる可能性がある大学生利用者の増加と、沿線を観光する新たな貴志川線観光の形の提供を考え、本プロジェクトの目的とした。

<今年度の目標>

今年度の目標として、大きく2つの目標を設定した。1つは、メンバーが貴志川線の魅力を知り Facebook で発信し、結果としてプロジェクトへの100いいね！を獲得すること。2つ目はツアーを行い、貴志川線を訪れたことのない大学生を案内することである。

<活動内容>

今年度は週1回のミーティングのほか、視察やツアー、沿線住民団体との交流などを行った。活動の様子は Facebook で発信し、現在まででプロジェクトへのいいね！数は77を獲得している。それぞれの活動の詳細は以下のとおりである。

活動名目	日にち	内容
第1回視察	8月21日	日前宮、伊太祁曾神社参拝、 貴志駅でたま駅長と対面、いも畑にて昼食 和歌山電鐵の方と意見交換
第2回視察	9月18日	竈山神社、足守神社、津秦天満宮参拝 丸巳にて昼食、コフクカフェにて休憩
第1回ツアー（中止）	11月10日	
第3回視察	11月25日	吉礼駅周辺の飲食店調査 喫茶フレンドにて昼食、Mocoにて休憩
第1回ツアー	12月8日	沿線の神社参拝、カフェシャイニーにて昼食 貴志駅にてニタマ駅長と対面
第1回交流会	1月19日	山東まちづくりの会さん、貴志川線の未来をつくる会さん、和歌山電鐵さんとの意見交換
第2回交流会	2月11日	イノシシバーガー試食会
第2回ツアー	2月12日	いちご狩り、伊太祁曾神社参拝 カフェカームにて休憩、を予定
第3回交流会	2月15日	駅からウォーク&ハイク ボランティアスタッフ参加

○8月21日視察

第1回目の視察として、日前宮、伊太祁曽神社を参拝し、たま駅長を見た後和歌山電鐵の方と意見交換を行った。貴志川線には西国三社参りという歴史のある神社が3つあり、今回はその内の2つを参拝した。貴志川線はもともと沿線の神社を参拝しやすくするために作られたものであり、観光には外せないスポットである。メンバーのほとんどが初めて貴志川線を利用する者ばかりだったため、とても楽しみながら視察することが出来た。神社の歴史を学んだり、正しい参拝の仕方を学んだりなどした。また、和歌山電鐵の方との意見交換では、本プロジェクトの目的と今後の動きを説明した後、貴志川線の現状や和歌山電鐵の取り組みについてのお話を伺った。観光客の多くはアジア系の外国人であること、たま駅長を見るだけで沿線を観光する人はほとんどいないことなど様々なお話を聞くことが出来た。



○9月18日視察

第2回目の視察として、西国三社参りの1つである竈山神社と、観光資源発掘のために足守神社と津秦天満宮という神社を参拝した。足守神社は日本で唯一の足の神様を祀る神社で、津秦天満宮は菅原道真が寄ったとされる学問にまつわる神社であり、どちらも規模は小さいものの魅力的な観光スポットである。昼食と休憩は地元で人気の食事処とカフェでとった。



○11月10日ツアー（未開催）

2回の視察で回った場所をもとに、第1回貴志川線満喫ツアーと称し、大学生を対象とした貴志川線をめぐるツアーを企画した。メールやポスター、口コミなどで募集した結果、8人の参加者を集めることが出来たが、雨のため中止となってしまった。

○11月25日視察

観光においてグルメは誰もが重視するものとして、第3回目の視察では貴志川線のグルメスポットの発掘を行った。特にグルメパンフレットがつかられていない吉礼駅の周辺を中心にめぐり、場所の確認をしたり実際にお店の料理を食べたりした。昼食を食べた喫茶フレンドは吉礼駅の目の前に位置する、3代続く喫茶店で、600円のフレンド定食が人気である。カフェ Moco はしょうがを使った料理やケーキが食べられるお店である。また、当日は定休日であることが出来なかったが、カームという家をカフェにしたお店を発見した。



○12月8日ツアー

11月に中止となってしまったツアー内容で、改めてツアーを行った。内容は、日前宮と伊太祁曽神社、足守神社を参拝し、カフェで昼食をとったのちに貴志駅に行き、ニタマ駅長に会うというものである。貴志川線の魅力の一つである西国三社参りの神社を知ってもらうために神社を二か所回った。また、大学生はカフェが好きな人が多いということで、視察で訪れたカフェで昼食をとった。工夫した点が2つあり、1つは、ツアー内でメンバーが神社の説明を行い、それにまつわるクイズを参加者に応えてもらい、上位者には景品をプレゼントするというイベントも行った点である。クイズ形式にすることで、参加者が暇をすることなく過ごせるように心がけた。もう1つはツアーのしおりをつくり、ツアーで回る以外の貴志川線の情報を参加者に提供できるようにした点である。参加者は、ツアーの告知が遅くなってしまったため2人と少数だったが、どちらも初めての貴志川線観光ということで、楽しんでもらえたようだった。



○1月 19日交流会

貴志川線が廃線を免れたのは、何よりも沿線住民の活動によるものであることから、住民団体との交流を計画し、その活動を知ろうと考えた。11月にまず山東地域で活動している「山東まちづくりの会」とコンタクトを取り、1月に山東まちづくりの会主催のもと、貴志川線を永續させるために活動している「貴志川線の未来をつくる会」、さらに和歌山電鐵も交えて初の交流会をした。内容としてはお互いの活動の紹介、そしてリピーターを増やし、貴志川線を活性化させるためにどのような活動をしていくべきかについて話し合った。結果として、いちごやたけのこなど貴志川線の特産の食べ物を生かしたリピーターづくりが有効なのではないかという結論に至った。そこで、まず住民団体が行うイベントにメンバーがスタッフとして参加し、イベントを体験するとともに最終的にはこれらの団体同士でひとつ大きなイベントを計画しようということになった。



○2月 11日イノシシバーガー試食会

4月に行われるクラフトパークというイベントへの出店に向けて、山東まちづくりの会主催のイノシシバーガーづくりに参加した。ジビエの活用として、山東地域のイノシシを、様々な味付けや盛り付けでバーガーにし、試食会を行った。バーガーのパンも山東地域のパン屋のものを使っており、山東地域の名物として今後も改良を重ねていくそうだ。



○2月12日ツアー

第2回目のツアーは、貴志川線の特産であるいちご狩りを含んだツアーを行った。ここでもクイズを行い、おいしいいちごの見分け方や食べ方などを紹介した。カフェは本来なら定休日にもかかわらず、このたびのツアーのために開けていただき、ケーキセットを頂いた。参加者は5人と募集人員の半分だったが、内1人が大阪府立大学の大学生だったため、他大学生との交流の機会としても役立ったと考える。



○2月15日ボランティアスタッフ参加

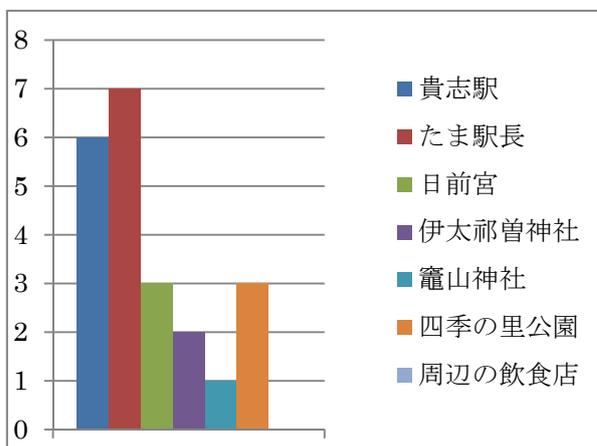
貴志川線の未来をつくる会主催の「駅からウォーク&ハイク」というイベントにスタッフとして参加した。年に3回ほど行われる、沿線の歴史的な建物や熊野古道像をガイド付きで歩くというイベントである。今回は最後のイベントで、熊野古道を歩いて旧中筋家など歴史的な建物や神社をめぐるというものであった。最後には、文化財にも指定された伊太祁曽駅の車庫の見学もあり、貴志川線の魅力が詰まったイベントであった。参加者は60人以上と規模が大きく、ほとんどが高齢者であったが、元気にイベントに参加しながら多くの人と交流する姿が見られた。貴志川線に住んでいながら、沿線のことを何も知らずに来たことを後悔して参加する人や、貴志川線を永続させるためにイベントに参加している人など、貴志川線について考えている人々と交流することができ、とても勉強になった。



<今後の展開>

これらの活動を通して、メンバーは貴志川線を知ることができた。またツアーや交流会などを通して、プロジェクトの今後の動きについて考えることができた。今後の計画としては、貴志川線観光のリピーターづくりと、沿線の住民団体とのイベントの2つがあげられる。ツアー参加者に事前アンケートと事後アンケートを行ったところ、貴志川線の認知度調査とイメージ調査については以下のようなになった。

<知っているものに○をつけなさい>



貴志川線のイメージ

たま駅長、ニタマ駅長、
いちご電車などのユニークな電車、
盛り上がっていない、
利用者の少ないローカル線

また、ツアー参加者計7名のうち、貴志川線を利用したことがある人は2人だけであった。利用したことがない人に対して、その理由を聞いたところ、「行ってみたかったが、機会がなかった」と答える人がほとんどであった。以上のように、貴志川線のイメージは、たま駅長やユニークな電車のイメージにとどまっており、学生に訪れたいと思わせるものが一つ足りていないと考えられる。

一方で事後アンケートの方では、「神社などをめぐって楽しかった、知らない魅力が知れて

また行きたいと思った」など、貴志川線を訪れることでプラスのイメージが増えていることから、学生に貴志川線を訪れる機会を提供することは意味のあることだと考えられる。しかし、今年度では7名とごくわずかな人数しか案内できていないため、リピーターづくりを図るためにはもっと大勢の学生を訪れさせる必要があるのが今後の課題である。また、大人数をツアーで案内するうえで生じる様々な不都合を解消することも必要である。

住民団体とのイベント計画においては、前述したようにイベントへの参加を通して今後の計画を立てていこうと考えている。住民団体の力を得ることで、地元住民や他地域の観光客誘致を行うことができ、本プロジェクトの活動領域を広げられると考える。

来年度の動きを決めるために春休み中にもミーティングを重ねて準備をしていく。